

領域・小問ごとの分析	対策の視点
と気づいていない。	
<p>領域②（量と測定）について</p> <p>この領域の平均正答率は42%で、他の領域に比べ最も低い。特に公式を忘れていて問題が解けない児童、問題文をよく読まないで誤る児童が目立っている。これを防ぐには、公式を形式的に導入するだけでなく、導く過程を丁寧に扱うことが大切である。また、問題を解く練習時間をできるだけ多くとる工夫も必要である。</p>	
領域・小問ごとの分析	対策の視点
<p>③ 図形</p> <p>1. 図形の対応関係</p> <p>正答率は87%で、頂点の対応関係はよく理解されている。</p>	
<p>2. 三角形の合同</p> <p>(1)の正答率は55%、(2)の正答率は38%である。(2)の二辺とその間の角がそれぞれ等しいならば、合同な三角形が書ける、という条件はよく理解されていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 二つの三角形が合同であるための条件を理解させるには、児童に作図をさせるなど、具体的な操作を通して指導することが大切である。</li> </ul>
<p>3. 角の大きさを求める</p> <p>(1) 三角形の外角</p> <p>正答率は56%である。誤答は、<math>180^\circ - (63^\circ + 42^\circ) = 75^\circ</math>とした誤りが多い。</p> <p>(2) 平行線の同側内角を求める</p> <p>正答率は64%である。平行線に交わって出来る角の性質は重要なのもっと正答率を高めたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ <math>180^\circ - (63^\circ + 42^\circ)</math>の結果が三角形の内角になっていることを判断できるようにしたい。</li> <li>◦ 作図、角の実測を通して、角の性質や関係の理解をはかることが望ましい。</li> </ul>
<p>4. 円周率を求める式</p> <p>正答率は48%で、あまり理解されていない。誤答としては、直径÷半径、面積÷直径、円周÷半径など円周率の意味が理解されていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 円周の測定を通して、円周と直径の関係に気づかせ、円周率を具体的にとらえさせる。</li> </ul>